



No.29 (通No.108) 2022年6月21日

てつがく なかにわ  
LEE'S レター 哲樂の中庭 2022年夏至

仕事をこえて、さまざまに考えをめぐらせ、それをまた仕事にいかすアプローチ

## 忙中閑あり、忙中俯瞰あれ

### 『プロ講師になろう塾』

クレオ大阪東館で2022年度も開催。講師を足がかりに自分ならではの仕事・ビジネスを拓きましようという塾、今年で12期目。

セミナー案を企画書にまとめ、外部から招いた方を含め、目利きのコメンテーターを前にプレゼン。受講者は短期集中で自問自答を重ねることになって、なかなかハードですが、毎年度、〈自分に開眼する〉人も少なくありません。初回は7月16日(土)午後1時から、プレゼンは8月20日(土)午後1時30分から、詳細は以下、応募は女性限定です。

クレオ大阪東館・講座・イベント情報：  
『プロ講師になろう塾 approach 2022』

### BTS とユング?!

つい先日活動の一時中断を発表したBTS、結成9周年を迎えたタイミング。

BTSとユング?!と買った『BTS、ユング、こころの地図』(マリオス/他 創元社2022年5月)、まだ第3章ですが、今回の決断、なんとなくわかる気がします。「中井正一」の次の言葉を思い出しました。

『〈間〉、それは生きていることを確かめる時間の区切り、切断、響き!』



LEE'S (リーズ)

〒541-0046

大阪市中央区平野町1-7-1

堺筋高橋ビル5F Tel. 06-7160-0937

大阪 NPO センター RS B507

リー・ヤマネ・清実

Lee Yamane Kiyomi



「コロナ」3年目、社会全体が動き出しました。大阪の天神祭は船渡御と花火は中止だそうです、京都の祇園祭は山鉦巡行も行われるようです。

すぎてみれば2年もあつという間、いざ動き出すことを念頭に、普段できないことをやったという人や企業にとっては、「きた、キタ、来たー!」の心境ではないでしょうか。

実際、知人の一人はこの間に発奮して始めた活動がメディアの目にとまり、新聞で大きく紹介されたとか、別のある事業所は昨年一年かけてガイドブックを制作し、今年設立20周年に間に合わせ、関係機関や各方面に広報できるようにしたとか。

一方で左記のBTSのように、ここにきて一旦立ちどまるという決断。発表は9周年迎えた翌日だったようで、10年目に入るタイミングに個人的には頷けました。次の10年のためです。

### 見聞感考 | スマホしていない人の近くに立とう…

6月15日水曜午後4時40分頃、北浜駅から地下鉄5両目の一番後ろに乗る。ドアが開まる直前に年配の女性がゆるりと乗車。ワンピースと同系色の帽子をかぶった女性、年齢は70代半ば? おしゃれな〈貴婦人〉という感じ。

すぐに電車は発車、瞬間「あ〜あ ああ〜!」。えっ?と声の方をみると、〈貴婦人〉が体を後ろにのけぞらせている。肩まわりは車両のつなぎ目のドアに付くつかないゆ、腰から背中にかけては、座席にすわっている人のヒザに乗った状態。体勢を整える前に電車が動き、体が後ろにもっていかれた様子。

1秒、2秒…。座席には別な人もいたし、前の3人掛けの座席もうまっていたし、近くに立っている男子もいる。なのに、誰も動かない。

「今」に埋没していると先のことに意識がいかない。少しはなれて「今」をみて、過去から未来の流れをみる、俯瞰する。そんな習慣が身につけば、しめたもの。

時代の流れと自分・自社の流れをじっくり見渡せば、しだいに何をすればいいか見えてくる、自分で答を出せる。BTSのように、時にはいったん休止もあり得る。俯瞰を重ねるうちに、いま現在を未来から見ている感覚になる。すると「今」起こっていることに動じなくなる。“そうきたか…”と平常心で臨める。精神的安定を保てるのは大きな効用。

「コロナ」1年目の2020年11月立冬レターで『略系表』で俯瞰のすすめをしました。「コロナ」3年目、動き出した世の中・世界の状況を前にあらためて、忙中俯瞰あれ、です。

については『[ふかん・俯瞰塾](#)』を予定しました。ある意味〈われにかえる〉時間、塾は定期的に続けるつもりです。

慌てて、少し離れたところにいたわたしから寄り、肩に手をかけ、体を起こす。ここでようやく一人の中年女性が、「大丈夫ですか」。それでも驚くことに、自分のヒザに倒れ掛かっているのにまだボーとしている座席の男性…。〈貴婦人〉の「すみません、すみません…」の弱々しい声か切なかった。

それにしてもなぜ誰も動かないのか。いや、動かないと見ました。車内で立っていても座っていても、みな手にスマホ。両手または片手にいつもスマホ、画面をみるのにずっと下を向いている体勢がしみついて、パッとスマホを離して次の動作に移ることが出来にくく、できない。

“本当にもう、誰も助けしてくれないと思った方がいい…”。せめて電車の中ではスマホをしていない人の近くに立とう、かなり少ないと思いますが。